

特定公民連携事業推進法人 自己評価

特定公民連携事業名
諸福児童センター跡地活用事業

特定公民連携 推進法人	株式会社 From Earth Kids
事業期間	令和3年3月1日～令和8年2月28日
管理体制	代表取締役1名、取締役1名、職員1名

1. 特定公民連携事業推進法人としての自己評価

	項目	実施状況
1	事業の新規性・独自性について	<p>地域の子ども達の居場所としての機能だけでなく、更にここに集まる子どもたちの選択肢や可能性を拡げるための取組み(イベント/諸福ジークなど)や、子育て世代の抱える課題や問題に対するのアプローチ企画を(小学校などの長期休暇期間に実施する預かり企画「あそびの日」など)年間を通して行う。更に、施設に「企業主導型保育園」や「訪問看護ステーション」などの事業所を有することで、地域への雇用の創出も産むことができている。これは施設の保有する機能や用途を継承する指定管理者制度ではなく、施設のもつ可能性を最大限に活用することのできる公民連携事業だからこそ出来得る極めて独自性の高い事業である【◎◎◎】</p>
2	基本方針に沿っているか	<p>① 子どもの未来の可能性を広げる居場所づくり【◎◎◎】</p> <p>→将来の進路や職業の選択肢となるべき「さまざまな実体験」の場を提供するイベント「諸福ジーク」を実施。</p> <p>→習い事教室である STEAM 教室では、ドローン・プログラミング・3D プリンターなど、最先端の知識や機器に子どもたちが実際に触れる機会を生んでいる。</p>

		<p>② 職住楽が超近接した新しいライフスタイルの創出【◎】</p> <p>→多方面で活躍する地域在住の作家やデザイナー、店主などが主体となるイベント「Life hug」を実施。</p> <p>→施設内の企業主導型保育園では、主婦の雇用も産んでいる。</p> <p>→施設内の部屋やスペースを活用して頂く「スクチャレ」を開始。お母さん同士のダンスチーム、合唱団チームなどの練習場としての活用も増加している。</p> <p>→毎年の年明けに行う「おもちつき会」では、子どもたちだけでなく、地域の方々の交流の場として機能。また、「餅つき」という日本の伝統文化の世代間への継承という側面としての意義も高いものとなっている。</p> <p>③ 周辺公共施設と連携した多世代コミュニティの場【◎】</p> <p>→今期は、隣接する「諸福老人福祉センター」との連携が更に活性化。敬老の日やお芋掘りのイベントでは保育園の子どもたちと福祉センターの高齢者が一緒になって楽しい時間を過している。</p> <p>→公共施設ではないが、同市の太成学院高校の先生や生徒もイベント:諸福ジークに参加。地域の高校生や小学生との交流の場を創出することとなっている。</p>
3	事業の対象者は計画どおりか	地域の子どもたちや地域の方々が利用・参加する施設であり、計画通りである【◎】
4	収支計画の妥当性について	<p>概ね、妥当である【○】</p> <p>◇保育園・訪問看護事業【◎】</p> <p>→保育園については、年間を通して受入児童は満員の状態であり、来期についても現時点ですすでに定員に達している。</p> <p>→訪問看護についても右肩上がりの状況で、「看護」部門に加えて「介護」部門の受入も今期中中よ</p>

		<p>り開始している。</p> <p>◇習い事教室【○】</p> <p>① 学習塾というカテゴリーから、勉強だけでなく、より広義での「学びの場」とするコンセプトへと変更した事により、周知が伝わりづらいものとなっていた。今期途中より市内で学習塾を運営している企業と連携し、改めて学習塾としてのコンテンツを再スタートした。</p> <p>② ビジョントレーニング教室について、ビジョントレーニングのもつ「支援の分野での可能性」から、市内および市外での講演などの依頼が増えた半面、教室としての周知・拡大などの動きに注力できず生徒数の増加率は微増の範囲に留まる。</p> <p>③ ダンス教室は市内および市外のイベントやステージにも積極的に参加することで、既存生徒や親御さんのモチベーション向上につながっている。更に対象年齢を少し引き下げた「リトルクラス」を新規に展開。同教室の講師への引き合いも多く、市外のダンス教室での講師活動もスタートした。(現在四條畷と守口に1店舗ずつ)</p> <p>今後、①②を含めた各教室についても SNS 活用による周知を更に強化し、より多くの参加者を生みだしていきたい。</p>
5	事業の運営体制について	<p>施設の運営については、各事業で体制を構築し、問題なく運営している。</p> <p>法人としての事業運営をより強化していくことを大前提としたうえで、行政・教育機関・公共施設など真の意味で連携を行うことが必要であり、現状ではその体制にはほぼ達していない。</p> <p>「真の意味での連携」これは前年度同様で今年度も特に大きな変化を生むことはできなかった【△】</p>
6	事業の拡大性について	<p>保有する敷地及び施設内のみでの活動であり、事業の拡大性については現状無し。</p> <p>施設が手狭に感じるため、他の用地の活用や連携を考えていきたい。【△】</p>

7	大東市との連携について	施設の修繕における連携のみで事業運営における連携は現状では成されていない。 事業運営における周知等で連携を強化していきたい。【△】
8	周辺地域との連携について	定期的を開催する「諸福ジーク」「Life hug」「夏休みジーク」などのイベントが定着。 昨年度より繋がりのできた商工会議所青年部との連携も更に活発となり、青年部主催のイベントにもビジョンパーク、FC.OXALA、STEAM 教室として参加。 今年度より太成学院高校との連携も開始。同校の先生や生徒などが諸福ジークなどのイベントに参加し、高校生と小学生といった少し年の離れた子ども同士の交流も産むことができている。【◎◎】

2. 維持管理業務についての評価

(リスク分担表に基づき、特定公民連携事業推進法人が実施すべきものについて)

	項目	実施状況
1	清掃	法人および、入居するテナント職員で形成する「テナント会」を中心に館内および施設内の清掃を行っている。【◎】
2	設備保守管理	年2回の消防設備点検を行っている。 外部倉庫に面した木製やトタンの納屋のような場所があったが、老朽化などによる倒壊などの心配もあったため撤去した。【◎】
3	植栽管理	1の清掃と同様、テナント会を中心に行っている。【◎】
4	警備	SECOMの警備システムを導入している。 大きな問題などは発生していない。 また、四條畷警察との連携も行い、不審者対応の訓練について実施(2月実施のため現段階では予定となる)【◎】
5	修繕等	リスク分担に基づき、主に建物関連の修繕工事を実施している。

		グラウンドの雑草や雑木、そしてグラウンドの轍やひび割れ、マンホール周辺の陥没、凹凸などがかなり表面化していたため、グラウンドの改修工事を実施した。【◎】
--	--	--

3. 利用状況について

	内容	実施状況(実績値等)	検証(課題・達成度)
I	利用者数	① 企業主導型保育園 利用者計228名 ② イベント全般 来場者数約1,200名 ③ 習い事教室 利用者計約 650 名	① 企業主導型保育園 定員 19 名×12 か月=228 名 ② イベント全般 おもつき会 (1 月) 70 名 春休みジーク (3 月) 250 名 (あそびの日+運動会) なつあそび (7 月) 100 名 (諸福ジーク+Life hug) 夏休みジーク (8 月) 380 名 逃走中 (8 月) 10 名 諸福ジーク (11 月) 70 名 冬休みジーク (12 月) 30 名 (鬼ゴッターバージョン) 外部イベント 最高マーケット (2 月) 100 名 ドローンイベント (4 月) 50 名 YEG フェス (10 月) 100 名 ③ サッカー 120 名 (10 名×12 か月) 学習塾 96 名 (8 名×12 か月) ビジョントレーニング 180 名 (15 名×12 か月) STEAM 教室 60 名 (5 名×12 か月) ダンス 156 名 (13 名×12 か月)

4. その他(自由記述)

開所 4 年目を迎えた今年度は、春休みや夏休みなどの小学校の長期休暇に行う「〇休みジーク」や年明けの「おもちつき会」など、年間を通して時期に合わせて企画をそれぞれ実施してきた年度となりました。

(おもちつき会:令和 6 年 1 月)



(春休みジーク(フロムアースキッズ運動会):令和 6 年 4 月) 諸福小学校体育館にて実施



(夏休みジーク:令和6年7月、8月)



施設主催のイベントだけではなく、地域のショッピングセンターでのドローンイベント、商工会議所青年部が実施するイベントへの継続参加など、外部イベントへの参加も積極的に行いました。所在地である諸福地域だけでなく、住道エリア、野崎エリアの子どもたちや親御さんへの周知拡大についても今後は継続して行ってまいります。諸福エリア外からの利用者については、そのほとんどが Instagram での発信を開催イベントなどの情報ソースとしておられますので、SNS を活用しての周知活動についても今後は更に重要になってくると思われます。

(ショッピングセンター/オペラパークでのドローンイベント:令和6年4月)



(大東 YEG フェスティバル:令和 6 年 10 月)



8 月に行った諸福ジークと Life hug の合同イベント「夏あそび」。はじめての夏休みの開催ということでご家族連れの参加も多く盛会となりました。同市にある「太成学院高校」との連携がこのイベントを機にスタートしました。これまで地域の大人と子どもたちとの交流は多くありましたが、今回は小学生と高校生という年齢の違う子ども同士の交流の場を作ることができたのはとても大きいことだと思います。諸福ジークは子どもたちに自分たちの体、目、耳を使って実際に手に触れて、話を聞いてといった体験を大事にしていますが、大人から感じることに、少しだけ年の離れたお兄さんお姉さんから感じるものはまた少し違った「体験」として子どもたちの中に残っていると思います。

(諸福ジーク/夏あそび:令和 6 年 7 月)



習い事教室である「ビジョンパーク」はまだまだ国内では珍しい「ビジョントレーニング」を専門に行う教室です。ビジョントレーニングはサッカースクールである「FC.OXALA」の練習カリキュラ

ムにも導入しており、フロムアースキッズの大きな特色でもあります。生徒数の増加率はまだまだ微増の範囲ではありますが、その希少性や効果の大きさから确实の需要は拡大しております。基本的には子ども向けの教室であるビジョンパークですが、現役のプロボクサーや親子でのトレーニングなど、用途や要望に対してオーダーメイドでの仕様にすることが出来るのも大きな特色であります。



また、ビジョントレーニングを含めたフロムアースキッズの取組みについては、他市の行政や支援機関からの注目も高く、北河内地域の社会福祉協議会の定例会をはじめ、交野市の社会福祉協議会、摂津市でのシニア大学のカリキュラムの一環としてなどの講演機会が次々と派生していったのも今年度の特徴でもあります。



ビジョントレーニングの業界では「一般社団法人ビジョントレーニング協会」が発足し、様々な資格制度などが横行してしまっている現状に歯止めをかけるような大きな動きとなりました。その

ビジョントレーニング協会が主催する「第 1 回ビジョントレーニング学会」において、「ビジョンパーク」としてもその取り組みや活動内容についての発表などを行いました。フロムアースキッズとしての地域貢献と合わせて、ビジョントレーニングにおける地域貢献についてもひじょうに大きな役割をフロムアースキッズは担っていると感じております。



フロムアースキッズは子どもたちの居場所であり、子どもたちも地域の大人たちやフロムアースキッズ自身も「自育する場所」です。開所以来の大事なテーマに「夢中センター」というワードを加えました。児童センターから夢中センターに。フロムアースキッズは子どもたちも大人たちも「夢中になれる場所です！

以上